

## 田辺三菱製薬株式会社

### 企業プロフィール

#### 設立

1933年(会社合併:2007年)

#### 本社所在地

大阪府大阪市

#### 事業内容

製造業  
(医薬品の製造・販売)

#### 従業員数

3,764名(単独)  
(2020年3月末時点)

#### 年間休日数

126日(2020年度)

#### URL

<https://www.mt-pharma.co.jp>



### 取組のポイント

幅広い活動を対象としたボランティア休暇制度により、従業員の活動を支援。

ボランティア休暇以外にも、公務休暇や失効年休積立休暇など、従業員をさまざまな形でサポートする休暇制度を設定。

### 取組の目的・概要

- ボランティア休暇制度は、同社が人の生命に関連する企業であり、助けを必要とする人をサポートしたいと考えていること、また企業行動憲章にもある「社会との共生」を進めることを目的として設けられた制度であり、社会貢献を行う従業員に配慮し、年間6日間を限度として取得できる有給の休暇制度である。
- ボランティア休暇における活動の対象は6つあり、親族を除く高齢者の介護や障害者の介護、災害・被災地支援、自然環境保全、骨髄ドナー(登録・提供)、及びその他会社が認めた活動である。
- 公務休暇は、従業員が公民としての権利行使または義務履行(裁判員等の活動)の際に取得できる、有給の休暇制度である。従業員からの申請により会

社が都度その目的に応じて公務性や必要日数を判断している。

- 失効年休積立休暇は、本人の病気や家族の介護・看護等に使用できる休暇制度であり、サポートが必要な従業員に一定の配慮をするための休暇制度である。失効済の年次有給休暇を最大40日間積み立てて取得できる。
- 年次有給休暇の取得率は71.9%(2019年度)である。

### 取組内容と特徴

#### 災害・被災地支援のボランティア活動を後押しする取組を実施

- ボランティア休暇の取得目的は、障がい児の支援や災害・被災地支援が多い。

- 災害・被災地支援のボランティア活動を後押しするため、2018年の西日本豪雨、2019年の台風15号、19号の際、災害・被災地支援のボランティア活動を行う従業員に対し、被災地までの交通費や保険料に充てるため、上限2万円の支援金を支給した。
- ボランティア活動は金銭的な負担が少なからずあるため、支援金を支給するという金銭面での支援は、従業員に喜ばれている。
- また、大阪ボランティア協会が募集した災害ボランティア活動への参加者を社内で募集し、従業員は特別な用意をすることなくボランティア活動に参加できるようにした。

#### 期間を要する活動には柔軟に対応

- ボランティア休暇を利用して骨髄ドナーとなった従業員がいた。ボランティア休暇の付与は原則として6日間であるが、骨髄ドナーの場合には入院が必要など、6日では不十分な場合もあるため、骨髄ドナーについては6日を超えても必要な日数分の有給休暇を認めている。
- 骨髄ドナーとなる場合には、休暇を取得する機会が多くなるため、前々から計画して業務を調整し、上司や同僚に周知して対応した。

#### 公務休暇を利用して様々な活動に参加

- 公務休暇という名称の通り、裁判員として職務を遂行する等、公務性のある活動の際に取得されている。
- 一方で、公務性のある活動を幅広く解釈し、スポーツの日本代表に選出された従業員や、審判の国際資格を持つ従業員が、海外遠征する際に本休暇の取得を認めるなど、従業員のさまざまな活動を支援している。

#### 助けが必要な従業員をサポートする休暇制度

- 失効年休積立休暇は、いつ失効したものであるかは問わず、最大40日が積み立てられる制度となっている。

- 取得目的としては、本人の病気やけが、家族の介護・看護、保育所の慣らし保育、不妊治療である。様々な目的で取得できる制度であるが、保育所の慣らし保育や不妊治療で取得できることが特徴である。
- 特に不妊治療は、2010年に追加された目的であり、近年、不妊治療の負担は少なくないといわれている中、不妊治療に取り組む社員をサポートする必要があると考え、対象に追加した。



復興支援のボランティア活動の様子

#### 制度利用者の声

もともと私の後輩がボランティア活動に積極的に参加しており、それに刺激を受けてボランティア活動に参加するようになりました。ボランティア活動への参加は、繁忙月などは行けないこともありますが概ね月1回程度で、年間の付与日数の6日を使い切り、あとは年次有給休暇で対応しています。ボランティア休暇があることで、年次有給休暇の消化が少なくて済み、ありがたく思っています。ただ、6日では少ないと感じることもあるため、可能であれば、もう少し付与日数を増やしてもらえたらありがたいと思います。

私も含め、ボランティア活動に参加した方がいる場合、その体験記が社内イントラに掲載されたり、刺激をもらっています。今後は、体験記のみではなく、具体的にどのような準備が必要なのか等のアドバイスを掲載したり、災害支援のボランティアに参加する際に信頼できる団体の紹介などがあれば、参加する従業員も増えるのではないかと考えています。